

辛と幸

数日前の陽気から一転して 寒い一日となった。

熊本、大分の人々にとっては へらに冷たい雨となったであろう。

人ほどどんなに経験を経験、成長したとしても 辛いこと悲しいことがなくなるわけではない。

予期せぬ不運に見舞われ どん底に突き落とされることもあるだろう。

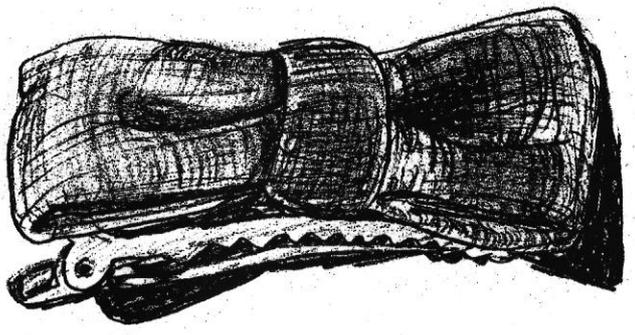
かつて福島がそうだったように、今の熊本、大分が そうかもしれない。

大震災を経験した私たちが、今、言えること…… 辛く、苦しい字を、書き、受けと、守るに、変えるのは、自分の努力と、思いやる心である、ということだ。

被災地の人々の生かす姿、 それを支えるボランティア活動、 福島復興に向けての様々な取り組み、 風評被害に負けない姿。

その一つ一つが、そのことを如実に物語っている。 過去は変えられませんが、未来は変えられるのだ。という強い意志が、 辛く、幸に変えていくのだ。

痛みの中でこそ、人間力が問われることになる。



福三
校長
だより

ほろこ

平成二十八年四月二十八日(木)

NO.97

山本環子
出版部
知事
出資
朝日
梅
林
出版部